

『機能でみる 船橋整形外科方式 肩と肘のリハビリテーション』

(第1版第1刷)

正誤表

本書におきまして、下記の通り記載内容に誤りがございました。訂正してお詫びいたします。

●p. 75 図6の図説

(誤)

- A：棘下筋横走線維は上肢下垂位での内旋を制限する。
- B：棘下筋斜走線維は上肢外転 90° 位での内転を制限する。
- C：小円筋は肩関節 90° 屈曲位での内旋を制限する。
- D：CHL は烏口突起に起始し小結節に停止する。

(正)

- A：肩甲下筋上部線維は上肢下垂位での外旋を制限する。
- B：肩甲下筋中部線維は上肢外転 60° 位での外旋を制限し、拳上に至る過程の制限となる。
- C：肩甲下筋下部線維は肩関節 120° 屈曲位以上の拳上を制限する。
- D：烏口上腕靭帯は烏口突起に起始、小結節に停止し、上肢下垂位での外旋を制限する。